

さしのぼる  
へだてなく  
我がねがひなる  
朝日の光  
世を照らさむぞ

昭和天皇

昭和天皇

第百二十四代天皇

【ご誕生】

明治三十四年  
四月二十九日

【ご称号】

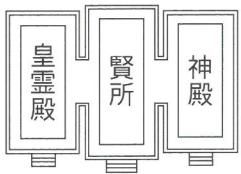
迪宮(みちのみや)

若竹(わかたけ)

【ご陵所】

武藏野陵

## 賢所—神々のおわす宮中三殿



皇居の森の奥、鬱蒼と木々茂る敷地のほぼ中ほどに、特別な場所があります。

皇室の皇祖神であります、天照大御神の御靈代として御神鏡を御祭りします「賢所」、歴代天皇・皇后・皇族の御靈を御祭りします「皇靈殿」、天神地祇を御祭りします「神殿」があります。この三殿を宮中三殿と言います。

※御靈代：魂のしるしとしてまつるもの。  
御神体：みたましろ  
ともいう  
※賢所：「けんしょ」ともいう  
ともいう  
と国つ神のこと

## 神道知識への誘ひ「大日本根子」

第一代神武天皇は、大和の檍原宮において即位され、鳥見山に祭壇をつくつて皇祖神・天神をお祀りしました。國の平安や民の安寧を祈られました。

歴代天皇に連綿と受け継がれたその大御心は、「國やすかれ、民やすかれ」と詠まれた御歴代の御製のお言葉そのままに承ります。この叶います。

歴代天皇の御敬神と御祭事最優先の御事は、古典によつても伺えるところで、第八十四代順徳天皇の御著『禁秘御抄』の冒頭に

「およそ禁中の作法、先づ神事、後に他事とする」と述べられていることからも拝察できます。

更には古く、『日本書紀』等には「大日本根子」という言葉が天皇のお名前に冠せられた記載が見られます。「根子」とは「神主」を意味する古語で、祭祀との結びつきは明らかです。現代でも使われる「政(まつりごと)」という言葉の語源は「祭事」であり、祭祀こそが皇室の最も重要なお務めであるとされてきた長い歴史の重みを感じます。

